

# THE MEIJI 150 FES.

## うちの館・明治150年フェスティバル・1

### ゆかた・デ・ナイト2018

平成30年8月16日（木）午後5時～8時  
入館料（高校生以上300円・小中学生200円）のみ  
ゆかたの方は入場無料



←夕刻より夜店開店

近内御霊神社で献灯祭→



5時～5時30分 講演  
「藤岡家と明治の文人たち」  
～「文豪」が世界を目指す若者  
であった時代～ 川村優理



展示室 明治150年  
「文房具～文人たちの跡～」展  
（7月1日～9月22日） 展示室にて  
藤岡家所蔵の文房具と文人たちの墨跡  
「明治の楽器」展  
月琴の楽譜。片鼓など 母屋にて



5時30分～6時20分  
HOOK ウクレレコンサート

6時30分～7時  
奥田真祐美シャンソン

7時10分～8時  
エンヤトット一座ライブ



登録有形文化財「藤岡家住宅」うちの館（やかた）

〒637-0016 奈良県五條市近内町526 ・ ☎と fax 0747 (22) 4013

[info@uchinono-yakata.com](mailto:info@uchinono-yakata.com) ホームページはうちの館で検索してください。

「藤岡家と明治の文人たち」～「文豪」が世界を目指す若者であった時代について～



「即興詩人」上・下  
森鷗外訳  
藤岡家所蔵

『即興詩人』 森林太郎訳

一、即興詩人は噠馬（デンマーク）の人 HANS CHRISTIAN ANDERSEN (1805～1875) の作にして、初版は千八百三十四年に世に公せられたり。

二、此訳は明治二十五年九月十日稿を起し、三十四年一月十五日完成す。殆ど九星霜を経たり。然れども軍職の身に在るを以て、稿を属するは、大抵夜間、若くは大祭日・日曜日にして家に在り客に接せざる際に於いてす。予は既に歳月の久しき、嗜好の屢々（しばしば）変じ、文至の画一なり難きを倦み、又筆を擲（お）くことの頻にして、興に乗じて揮瀉すること能はざるを惜みたりき。世或は予其職を□□して、縦（ほしいまま）に述作に耽（ふけ）ると謂ふ。寃（えん）も亦甚しきかな。

三、文中加特力教（カトリック）の語多し。印刷成れる後、我国公教会の定訳あるを知りぬ。而（しか）れども遂に改刷すること能はず。

四、此書は印するに四號活字を以てせり。予の母の、年老い自力衰へて、毎に予の著作を読むことを嗜（たしな）めるは、此書に字形に大なるを選みし所以の一なり。夫（そ）れ字形は大なり。然れども紙面殆ど余白を留めず、段落猶且（なおかつ）連続して書し、以て紙数をして太（はなは）だ加げらざらむることを得たり。

明治三十五年七月七日下志津陣營に於いて  
後者識す

アンデルセンの『即興詩人』をドイツ語から翻訳した森鷗外

『即興詩人』デンマークの童話作家 ハンス・クリスチャン・アンデルセンの書いた最初の長編小説。1835年／日本では天保6年）刊行。森鷗外（文久2年／1862年～大正11年／1922年）は、デンマーク語で書かれた作品を鷗外は、ドイツ語の翻訳から翻訳し、本作を「わが座右を離れざる書」とした。鷗外はドイツ留学より帰国し、明治25年から34年／1892～1901年（30歳～39歳）にかけ、約10年がかりで訳し、断続的に雑誌『しがらみ草紙』などに発表した。単行本初版は、明治35年（1902年）。春陽堂・上下で刊行されているが、藤岡家所蔵の『即興詩人』には出版社および出版年の表記がなされていない。

「例言」には、母が読みやすいように大きな活字を用いたことや、軍務の間の時間を縫って翻訳に務めたことなど、若き鷗外（森林太郎）の若者らしい言葉が残されている。



くりやがわはくそん  
イエイツの詩を和訳した厨川白村（明治13年～大正12年）の直筆原稿。校正は玉骨。

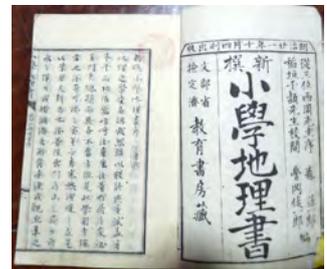
英国新詩  
夢  
井リアム、バトラア、イイツ作  
厨川白村 訳

光明の、  
こがね白かね織りなせる、  
あまつみみらの繡衣、  
白昼と夜とたそがれの、  
碧や、うすずみ、ぬばたまの  
そのわけごろもわれ持たば、  
君が裳裾のしたにこそ、  
敷かましものとかひなしゃ。

われの夢路を通ふ君、  
みあしのもとこの敷裳、  
われのおもひの夢なるを、  
やとら行きませ、夢のうへ

京都三高の学内誌「嶽水会雑誌」に掲載された英詩の直筆の翻訳原稿。

厨川白村は夏目漱石に師事した英文学者であり、文芸評論家。第三高等学校を経て東京帝国大学教授。三高教授を務める。白村は日本におけるイエイツの最初の紹介者。漱石「虞美人草」小野のモデルとも言われる。関東大震災で罹災し、翌日死亡した。藤岡玉骨は、三高生時代「嶽水会雑誌」の編集をしていたため、当時の原稿用紙が多数残されている。小・中学校の教科書には、特に「世界」を紹介する内容が多い。



世界の風土を紹介する小学校教科書（左）「小学地理」（明治9年 12年再販）／（右）「小学地理書」明治21年